



2021年12月15日

各 位

上場会社名 **コーセル株式会社**

代 表 者 代表取締役社長 谷川 正人

(コード番号 6905 東証第一部)

問い合わせ先 経理部長 高島 大介

TEL 076-432-8149

業績予想数値と実績数値との差異、及び通期業績予想修正に関するお知らせ

2021年6月23日に公表いたしました2022年5月期第2四半期(累計)の業績予想数値と本日公表いたしました実績数値に差異が生じたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、2021年6月23日に公表いたしました通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

I. 第2四半期累計期間業績予想の差異について

2022年5月期第2四半期累計期間連結業績予想数値との差異(2021年5月21日~2021年11月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	14,740	1,890	1,918	1,346	38.81
今回実績 (B)	13,814	1,538	1,532	948	27.72
増減額 (B-A)	△925	△351	△385	△397	
増減率 (%)	△6.3	△18.6	△20.1	△29.5	
〔ご参考〕前期第2四半期実績 (2021年5月期第2四半期)	13,485	1,734	1,933	1,294	37.33

2022年5月期第2四半期累計期間個別業績予想数値との差異(2021年5月21日~2021年11月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	11,420	1,530	1,560	1,080	31.14
今回実績 (B)	10,739	1,427	1,581	1,127	32.97
増減額 (B-A)	△680	△102	21	47	
増減率 (%)	△6.0	△6.7	1.4	4.4	
〔ご参考〕前期第2四半期実績 (2021年5月期第2四半期)	10,783	1,643	2,031	1,433	41.35

差異の理由

エレクトロニクス業界におきましては、経済活動の正常化に向け、今後の生産増加に備えた在庫積み増しのための需要増加が継続しました。また、世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造・増産を目的とした設備投資が進みました。一方で全般的な需要の回復により、半導体等部品材料の入手難が継続しており、各社の生産計画に影響が出ております。

このような情勢の中で、当社グループにおきましても、部品材料の入手難が生産活動、お客様への製品供給に影響を及ぼし、売上高は連結・個別ともに、前回発表予想を下回る実績となりました。

利益面におきましても、売上高が計画を下回ったことに加え、部品材料の取引価格高騰の影響により、原価率が上昇したため、前回発表予想を下回る実績となりました。

II. 通期業績予想の修正について

2022年5月期通期連結業績予想数値の修正（2021年5月21日～2022年5月20日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	29,200	3,696	3,740	2,672	77.04
今回修正予想（B）	26,500	2,330	2,320	1,500	44.01
増減額（B-A）	△2,700	△1,366	△1,420	△1,172	
増減率（%）	△9.2	△37.0	△38.0	△43.9	
〔ご参考〕前期実績 （2021年5月期）	27,020	3,020	3,432	1,077	31.07

2022年5月期通期個別業績予想数値の修正（2021年5月21日～2022年5月20日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	22,500	2,900	2,940	2,060	59.39
今回修正予想（B）	20,710	2,140	2,300	1,650	48.41
増減額（B-A）	△1,790	△760	△640	△410	
増減率（%）	△8.0	△26.2	△21.8	△19.9	
〔ご参考〕前期実績 （2021年5月期）	21,328	2,937	3,620	△543	△15.69

修正の理由

当第2四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が広がる中、先進国を中心に経済活動の正常化が進み、企業活動も回復傾向が続きましたが、東南アジアの一部地域における新型コロナウイルス感染症の再拡大、中国での電力供給制限等により、製造業に大きな影響を及ぼし世界的な部品材料の入手難につながっております。

今後の経済環境につきましては、新型コロナウイルス感染症の再拡大が懸念される中、半導体製造装置関連を中心に継続需要が期待できますが、部品材料の入手難や取引価格高騰の影響が続くものと想定しております。

以上のことから、通期の業績につきましては、売上高は連結・個別とも、部品材料入手難の影響により、前回発表予想を下回る見込みとなりました。また、利益面では、売上高計画の引き下げ及び部品材料の取引価格高騰の影響により、前回発表予想を下回る見込みとなり業績予想を下方修正いたします。

なお、通期業績予想の前提となる為替レートは、1 USドル=111.75円、1 ユーロ=129.50円、1 スウェーデン・クローナ=12.70円を想定しております。

※業績予想につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算出しておりますが、需要動向などの変化、各種通貨間の換算レート変動、株式市況動向など、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は、内外環境変化などにより業績予想と乖離することもあり得ますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。

以上